

Economic Indicators

発表日: 2024 年 6 月 7 日 (金)

景気動向指数(2024 年 4 月)

～5月分で基調判断が「下げ止まり」に上方修正される可能性大～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

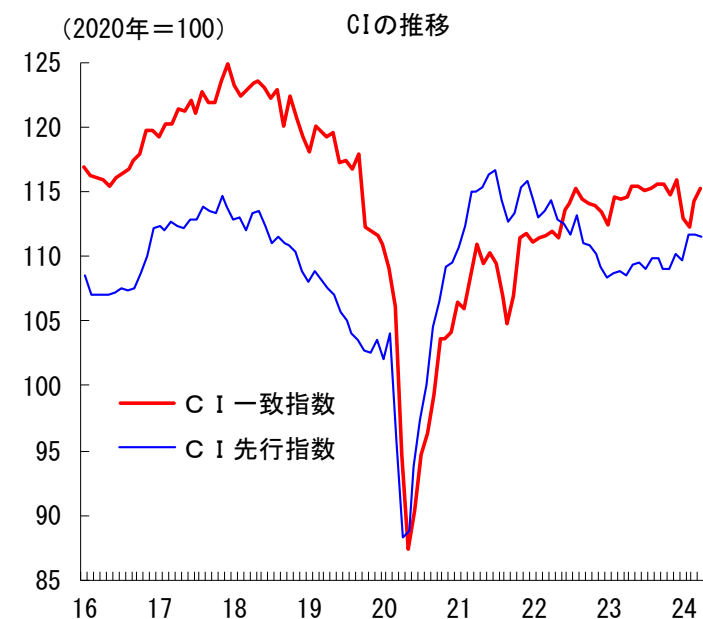
C I 一致指数は2ヶ月連続の上昇

内閣府から公表された 2024 年 4 月の景気動向指数では、C I 一致指数が前月差+1.0 ポイントと、3月の+1.9 ポイントに続いての上昇となった。C I 一致指数は認証不正問題を受けた工場稼働停止の影響等から1月に前月差▲3.0 ポイント、2月に▲0.6 ポイントと落ち込んでいたが、生産活動正常化の動きが進みつつあることから、足元では持ち直しの兆しがみられる。4月の内訳では、有効求人倍率がマイナスとなった一方、卸売業販売額や耐久消費財出荷指数などが押し上げに寄与している。

5月分で「下げ止まり」に上方修正へ

C I 一致指数の基調判断は3ヶ月連続で「下方への局面変化」となった。3ヶ月後方移動平均前月差の値は+0.77 と4ヶ月ぶりにプラスに転じたが、「下げ止まり」への上方修正基準である+1.14 には届かなかった。

もっとも、次回5月分では基調判断が「下げ止まり」へと上方修正される可能性が高い。5月のC I 一致指数が前月差で0.1 ポイントでも上昇すれば、「3ヶ月後方移動平均前月差の符号がプラスに変化し、プラス幅が1標準偏差分以上」かつ「当月の前月差の符号がプラス」という基調判断の上方修正基準を満たす。C I 一致指数と関係が深い製造工業生産予測指数で、経済産業省の補正試算値が前月比+2.3%となっていることから



(出所)内閣府「景気動向指数」

すると、5月のC I 一致指数も上昇する可能性が高く、基調判断は上方修正されることになるだろう。その先、仮に順調にいけば、8～9月頃に「上方への局面変化」、9～10月頃に「改善」への上方修正へと進んでいく見込みだ。

このように方向としては先行き持ち直しが予想される一方、そのペースについては不透明感が強いことに注意が必要だ。製造工業生産予測（補正前）でも5月が前月比+6.9%と増産見込みであるものの、6月は同▲5.6%と反動減が想定されており、力強さに欠ける状況である。また、この先の景気のカギを握る個人消費についても、24年後半に実質賃金のプラス転化が見込まれることや減税の実施が

下支えになる一方、物価上昇による実質購買力の抑制が家計の消費意欲を削ぐ可能性も残る。再エネ賦課金の引き上げや電気代、ガス代の負担軽減策の終了でエネルギー価格が大幅に上昇することに加え、円安によるコスト上昇分の価格転嫁への懸念もあり、消費者マインドは足元で低下気味だ。所得の増加が貯蓄に回ることによって個人消費が思うように伸びないというシナリオも十分考えられるだろう。景気の回復ペースについては慎重に見ておきたい。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

